

あかりだより

発行：2020年11月

発行者：社会福祉法人 あかりの家

題字：田中 弘二

新型コロナウイルスなんかには負けないぞ



対策はしっかりと

たくさんのマスクをありがとうございました

就任ごあいさつ

障害者支援施設 あかりの家
施設長 坊 垣 勝 彦

1986年4月、自閉症者3名の親たちが中心となり、様々な苦難を乗り越え誕生したあかりの家は、2020年4月、35年目を迎えました。

1994年4月には三原前施設長が就任され、本年3月末の退任まで26年という長きにわたり、あかりの家の歴史を積み重ねて来られました。この間、複数のスーパーバイザーを招いての療育研修会や事例研究会、嘱託医による学習会を開くなど、丁寧な支援と高度な専門性で「福祉は人なり」を実践して、あかりの家保護者のみならず、地域の関係者からも信頼を得てきました。

本年4月1日付で施設長を拝命した私としましても、あかりの家の歴史の重みとそれを受け継ぐ責任を感じつつ、これまで自閉症支援の拠点施設として展開してきた高い専門性と地域からの信頼を維持、発展させながら、あかりの家の現在、そして未来のため、職員と共に力を合わせて前進していく所存です。

あかりの家設立の“志”は県内の自閉症者とその家族へのより良い人生の提供であり、30周年を機に打ち出した「自閉症総合援助センター」としての存在意義もそこにあります。あかりの家の根本的なテーマは、自閉症支援の“専門性”の追求です。それは、我々が地域で果たそうとする役割と不可分な関係にあります。それらを実現すべく、“人材育成”と“組織強化”に引き続き取り組んで参ります。

さて、今年度も早や半年が過ぎようとしています。

あかりの家も、いまだ新型コロナウイルスの脅威にさらされています。このコロナ禍の中、“あかり祭り”と“親子一泊旅行”という大きな行事の2つを中止せざるを得ませんでした。例年楽しみにしていただいている利用者及び保護者の皆様には大変申し訳なく思うとともに、我々職員としても残念でなりません。

日々の暮らしを送る上での制約はどうしても多くなりがちですが、施設内で小グループイベントを企画するなど、様々な工夫を凝らし、できる限り利用者の皆様のストレスがたまらないように気を配りながら支援を行っています。現在のコロナ対策に伴う非常事態がいつまで続くのかという不安、あかりの家で実際に感染が発生してしまうのではないかとこの恐怖、しかし何が起ころうと支援を止めるわけにはいかないという義務感、等々、大変複雑な心境で、利用者職員と職員の無事を祈る毎日です。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

歴史に思いを寄せて

障害者支援施設 あかりの家
副施設長 長 谷 川 博 信

この4月からあかりの家副施設長を務めさせていただくこととなりました。また、グループホーム、地域支援センターあいあむの管理者、引き続きワークホーム高砂の副施設長を兼ねて務めさせていただきます。昨今のコロナ禍では、施設での面会や行事等の実施を諦めざるを得ず、保護者の皆様やあかりの家を応援して下さる皆様に直接お会いし、ご挨拶する機会が無いことが残念であり恐縮しております。何卒よろしくお願い致します。

さて、新たな作業所「納豆工房なっとこちゃん」が本年10月19日に開設しました。新築した事業所では、調理設備を拡充するとともに衛生面や作業環境の充実により、さらに上質な商品づくりと障害者の就労支援を目指していきます。店舗もございますので是非ともお運びください。

その納豆づくりですが、もとは故今津前理事から教わったものとお聞きします。国産大豆でも特に北海道産のものを贅沢に使い、関西人の食感に合うように柔らかく煮ることが特徴です。また、手づくりだからこそできる一つひとつの商品への思いと、丁寧な作業は、小さな改良を重ねながらも職員や利用者に現在も引き継がれています。さらにできあがった商品は、高級食材を扱うヤマダストア各店で他の有名メーカーの中にあっても負けず、凛として並んでいます。障害者の作った商品が、掛け値無しに輝いているのです。

私はあかりの家で勤務してまだ僅かな時間しか経っていません。まだまだ不慣れで、学ばさせていただくことが多くあります。納豆づくり一つにしてもそうですが、これまであかりの家が創りあげた歴史や支援に思いを寄せながら、微力ではありますが利用者と職員が輝けるよう努めてまいりたいと思います。

新型コロナウイルス流行に伴う利用者の暮らし 障害者支援施設 あかりの家

◆第1期【2月～6月末頃】 約4ヶ月 帰省中止・外部の接触等を最小限に

「見通しのない帰省中止をどう伝えるか？」

散髪



2月末より、週末帰省を一時中止。

「いつ帰宅できるのか？」に明確に答えてあげる事は、自閉症支援の基本のキ。でも感染の終着点は誰も断言できません。

そういった不確定なことにことに対して、自閉症の方は強い不安を示されます。

賛否ありますが、不透明な「分かりません」ではなく、まず「〇月×日帰ります」と掲示。帰省が中止確定後、帰省日の週初めに「変更となりました」「あかりでねます」と変更を伝えるスタイルで、第1期は統一しました。

新型コロナウイルス感染対策委員会を設け、気になること・想定されること等への対応を検討し、ガイドラインを作っています。

その一つ、散髪は職員が行うことにしました。

「腕を上げてきていますヨ！」



◆第2期【7/4（土）頃】 133日ぶりの帰省日！

7/4（土）帰省当日。「今日、帰ります」の職員の説明も、利用者は半信半疑だったと思います。でも、家族を目にされた時の“純粋★サプライズ☆”な瞳を見ると、とても嬉しくなりました。そこには「自閉症という障害云々は何ら関係ない」と思いました。

・・・ご家庭でのひととき、如何でしたでしょうか？

◆第3期【7月中旬頃～】 再び感染流行・「新しい生活スタイル」を意識した生活

換気の推進！（網戸全ヶ所設置）

感染防止の中、ミニ行事



「冷房しつつの換気」「1時間に10分程度の換気」。これも今までに体験のなかったことです。

蚊が入ってこないよう網戸を設置しました。約20年前は、網戸サッシの開け閉めのこだわり等から、破損が目立ちましたが、今は見られていません。

新型コロナウイルス流行に伴い、諸活動が制限される中、保護者会より様々な寄付をいただきました。

久保田保護者会長より、かき氷機のリース・氷をいただきました。

8/12、例年ならあかりまつりですが、今年のかき氷大会を実施しました。

3つのグループホーム

友愛の家（開設4年目 定員6名）

この場面、大好き！－料理は療育要素の宝庫－

毎朝、朝食づくりを担当するAさん。味噌汁は、ほぼ自分で作れるようになってきました。豆腐の真ん中に包丁の照準を合わせる“まなざし”。まっすぐに切ろうとする“腰の入り方”。

一般的には、自閉症の方には難しいと言われていることかもしれません。次は、手のひらに豆腐を乗せて、包丁で切れるようになるかも！

あらゆる角度から、自閉症の方たちの可能性を追求していきたいです。



オリーブの家（開設6年目 定員7名）

和菓子づくりに挑戦！！～「和」の道を究める～

昨年のあかりだよりにて「朝食の和食づくり」について紹介させていただきました。あれから一年。

現在、オリーブの家ではさらに「和」の道を究めるため「和菓子づくり」に挑戦しています!!

今回は“羊羹”をつくりましたので紹介します!

意外にも調理工程はシンプル。あんこを水で溶かし、細心の注意を払い混ぜていく、最後は冷蔵庫で固まるのを待つ、といったもの。みなさん、ペロリとたいらげていました。

心なしか表情が柔らかくなっていたように感じました。やっぱり、自分でつくるものは美味しいものですね!



希望山荘日笠（法人運営18年目 定員10名）

コロナ対策「密」をどう避けるか？

希望山荘は利用者が10名と大所帯で、おしゃべり好きな利用者さんが多いためソーシャルディスタンスを守ることが難しいです。

食事は5人ずつ2回に分け、正面で向き合うことを避け、マスク着用で過ごします。中でも余暇時間にリビングでの団らんができないこと、猛暑の中1日中マスク着用のストレスが蓄積されています。

「コロナが無くなったらまたみんなで喫茶店に行く!」という目標に向かい日々手洗いうがいを心がけています。



受け入れる力

児童デイサービスあかりの家

見えないウイルスによって、変化する日常。変化の理由や意味をとらえきれないかもしれない。学校が休みなはずなのに休みになり、楽しみにしていた週末も制限ばかり…。

当たり前と思っていた生活が送れない不自由感。予定の変更ばかりの不信感。先の予定が未定なままの不安感。疫病の恐ろしさとは別の傷をこどもたちは負っている。その精神的な影響は計り知れない。そんな不透明さが日常になっていくかもしれない。気持ちが暗くなる。

ただ、そんな闇の中でも、子どもたちはたくましく成長している。



新型コロナウイルスの感染が拡大してきたなかで、マスクの着用が当たり前になってきました。街中では、マスクをしていないと入ることができないお店もあるほど感染予防のため、しなくてはならない物になっています。

ある日突然日常に現れたマスクに戸惑った子どももいると思います。あかりの家に来ている子どもたちも、保護者の方から「マスク嫌がるんです」というようなお話しもありました。それでも、子どもたちはあかりへ来る時にはマスクをつけています。

見えないウイルスから身を守るためにマスクを受け入れ毎日つけることができています。こういった突然現れたものでも柔軟に受け入れられる力は、日々生活する中でとても必要だと感じました。



ワークホーム高砂 納豆工房 なつとこちゃん 10月19日オープン



ワークホーム高砂 納豆工房 **なつとこちゃん**が、高砂市曾根町に10月19日オープンしました。2013年に、故今津房子前理事をはじめとするボランティア見守る会の皆さんから、手づくり納豆を引き継いで、製造、販売を行ってまいりましたが、今までの作業所が手狭となったため、新築移転することとなりました。

鉄筋2階建て延べ500㎡の新しい作業所は、調理設備を拡充、エアシャワーなど新たな設備を設けて、衛生面や作業環境も充実しています。また、**なつとこちゃん**の直販と、近隣福祉施設の商品を販売する福祉アンテナショップも2階に併設しています。

1日600～800個製造している**なつとこちゃん**も、北海道産大豆を使った4種類に、佐用もち大豆を使った極大粒の新商品を加え、5種類の**なつとこちゃん**を製造。これからは、ネット販売など販路を広げていけるよう、品質を向上させ、生産量を増やしていきたいと思っています。

オープンセレモニー

10月19日、高砂市福祉部長 北野 裕史氏をはじめ、あかりの家後援会長 柿木 國夫氏など、ご来賓の方4名を迎え、オープンセレモニーが盛大に開かれました。

西尾 淳理事長とご来賓の方、利用者代表として金谷 明朝さんがテープカットでオープンを祝いました。

利用者の今津 香苗さんが「みんなに喜んでもらえる、安全でおいしい納豆をつくれるよう、一生懸命頑張りたい」と、力強くあいさつしました。



福祉アンテナショップ

納豆工房 **なつとこちゃん**の2階に、新たな取り組みとして、福祉アンテナショップが同時オープンしました。

福祉アンテナショップは、午前10時～午後5時まで、年末年始以外は無休で、職員が交替で頑張っています。

自分たちが作った**なつとこちゃん**を直接お客様に販売できる場所ができたことは、とてもモチベーションがあがります。**なつとこちゃん**だけではなく、他の福祉施設のバラエティーにとんだ商品も販売しています。商品の販売だけではなく、福祉事業所同士が交流を深めるとともに、地元の方々に障害のある人たちの就労について理解を深めてもらえる場になりたいと考えています。



福祉アンテナショップ 出品事業所・商品

- あかりの家（高砂市）－ さをり織り
- 赤穂精華園（赤穂市）－ ドーナツ・ラスク
- あしたばの家（高砂市）－ マドレーヌ
- こころね（高砂市）－ エコラフト（靴）
- 五色精光園（洲本市）－ クッキー
- 太陽の郷（姫路市）－ お弁当用エコバック・マスク・お弁当
- 真砂園（姫路市）－ クッキー・パン
- わかば学園（加古川市）－ クッキー
- 若葉福祉作業所（姫路市）－ 刺し子工芸・プリン・シフォンケーキ



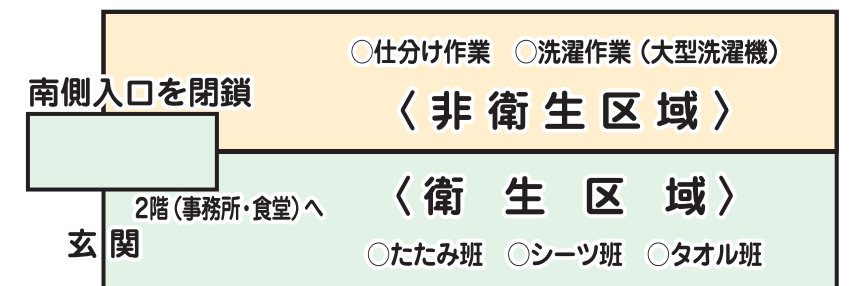
新型コロナウイルス感染防止対策 ワークホーム高砂

新型コロナウイルス感染防止対策として、3月末より、衛生区域と非衛生区域を明確に分け、玄関を衛生区域に移動しました。

汚れた洗濯物の仕分けを含め、大型洗濯機でクリーニングが終了するまでを、株式会社ゴトウ・アズ・プランニングの方にお任せして、利用者や職員は、クリーニング後の商品を扱う作業をするようにしました。

それぞれの区域の境をビニールカーテンで仕切ったり、利用者が通る通路を黄色の線と矢印で明確に表示、2階への入口を北側だけにするなど、クリーニング前と後の商品を扱う区域を明確に区分しました。

その他にも、マスクの着用はもちろん、厳重な手洗いの実施など、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、作業に頑張っています。



相談の現場から… 新しい仕事様式

<新型コロナウイルス感染拡大予防に向けての取り組み・変わったこと・変えたこと・新しい仕事様式>

高砂市基幹相談支援センターみんと 電話対応とアクリル板の衝立

新型コロナウイルス感染防止のため、主要業務である相談を可能な限り電話での対応としました。しかし、新規の方は対面の方が安心感があるからなのではないでしょうか、お電話のみの相談だったのは、49件中11件だけでした。

そこで、アクリル板の衝立を手配、どうしても対面で相談を受けないといけないときは、衝立を挟んでお話をすることにしました。

相談員の集まりも、広い部屋をご用意させていただき、ソーシャルディスタンスの確保を行ったうえで、久しぶりに開催することができました。

「みんと」が浸透してきたのか、新型コロナウイルスの感染拡大によるものなのか、相談件数はうなぎのぼりです。「お電話がつながりにくいこともあります、何度か挑戦してくださいね」と、お願いしないといけないくらいです。

皆さんに求められていることをしっかり心に留めて、今日も相談業務に励んでいます。



地域支援センターあいあむ 「信頼」を大切にしていきます

あいあむの相談員の主な業務は訪問です。今回の新型コロナウイルスは訪問することでご利用者さんやご家族、そして相談員とそれぞれ感染にリスクを感じてしまうこともあります。

訪問を最小限にさせていただき「密」を避ける対策を行いました。また、どうしても訪問が必要な方には、短時間・少人数をこころがけ、訪問前後に消毒を徹底させていただきました。

相談員は毎月たくさんの書類を作成します。書類作成は在宅ワークを活用し、分散しての出勤するようにしました。事務所を1階と2階にひろげ、密にならないようにしています。

計画案作成の訪問

定期的なモニタリング

サービス担当者会議



電話での聞き取り

働き方



在宅ワーク

分散しての出勤

2部屋を使用

新しい生活様式、新しい働き方を模索した数か月でした。

これまでのあたりまえの生活・働き方を見直すきっかけと前向きにもとらえ、これからも感染予防の徹底に努めます。

この在宅ワークをする中で見えてきたことは「信頼関係」です。お電話だけといった少ない情報の中でも伝わってくるもの、わかっていただけのことがあると感じたのは、これまでの信頼関係の構築が底辺にあるからだと感じました。

当番制の出勤では、事務所でしかできないことをお願いしたり、電話番をすることで、他の相談員の方とお話する機会も増えました。電話を受けて担当の相談員に連絡をするということは、その内容で相談員の次の判断や行動の決定される重要な材料を伝える任務です。リモートでもほぼ変わりなく数か月間業務を行えたのは、あいあむのチーム力もあると感じました。

これからもあいあむでは「信頼」を大切にしていきます。



兵庫県強度行動障害地域生活支援事業を受託して！

－障害者支援施設あかりの家における支援から－

1. 兵庫県強度行動障害地域生活支援事業とは？（事業実施要項より抜粋）

(1) 目的

緊急に支援の必要が認められる強度行動障害を有する者を、短期から中期集中支援し、再度地域生活を送ることができる仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とする。

(2) 集中支援の対象者

原則、在宅障害者のうち、障害支援区分の調査に併せて把握する「行動関連項目」を用いて判定した際に10点以上となる18歳以上の障害者。

(3) 事業内容

①集中支援

＜期間＞原則3ヶ月～6か月

（6ヶ月を超える場合は在住市町の長及び集中支援協議会の同意を得る）

②地域支援

＜対象＞対象利用者が地域に戻った際に利用する事業所等の支援員

＜内容＞集中支援機関が行う集中支援に参加し、対象者の障害特性や対応を学ぶ

期間は、原則1ヶ月

③集中支援協議会の運営

- ・支援対象者の優先順位の決定
- ・支援期間の決定
- ・対象在住市町との連携調整、集中支援の検証 など

2. 支援の実際 2019年度は2名の方が利用されました。内、1名の方を概略的に取り上げます。

(1) 対象者

女性（20代・自閉症・療育手帳A） 通所施設（生活介護）を利用

(2) 主訴（困っていた行動）と利用前・後の比較

主訴で上がっていた行動（下表参照）は、家庭・施設とも見られなくなりました。現在も波はありますが、毎日通所し、作業等頑張っておられ、家庭でも洗濯干し等の役割を持って生活しておられます。

	利 用 前		利 用 後
	家庭	施設	
服脱ぎ	何でも着替え 時々、裸のまま過ごしている	何でも着替える 夏場は裸のまま更衣室から出られず、そのまま失禁	0回
失 禁	なし	多い時は10回以上/日	
トイレトーパー使い切り	使い切ってしまう為、ホルダーにつけていない。	使い切る 止めると他害（髪の毛に掴みかかる）	回数を決め、一緒に巻き取るよう支援 使い切りなし
作 業		歩き回る、ソファに寝転んでいる 異食あり（石・葉・段ボール等）	一定時間、集中して取り組める
食 事	エプロン着用で食べてもらっている	エプロン着用 食べ物を一度食器から机に置き、手掴みで食べる	エプロン使用せず、介助箸で食べている（食べこぼし減少）
睡 眠	21時～3時 覚醒後、ペーパーの水浸けや冷蔵庫を漁る		22時には入眠 中途覚醒なし

◆支援のポイント

(1) 利用初日を成功へ！

それまでのこじれきった関係や環境の下での修復は困難な事が多く、環境を変え、シンプルな関係と構造化された環境の中で、行動の修復やいい生活リズムを再構築していくことが重要だと考えています。

そこで、環境を変えた利用初日は大きな方向の分かれ目とも言えます。事前の綿密な聴き取りの元、実際の場面では、衣類を着る・入浴・食事等の目標を本人と話をし、成功で終われるよう支援しました。「あかりの家ではうまくいけそう」という良循環のイメージを持っていただく為にも初日は重要です。

(2) 医療との密接な連携（事業嘱託医）

利用前の相談（見立て他）に始まり、利用後も短いスパン（3日～1週）で、行動傾向や睡眠などを報告。計4回の投薬調整を行いました。療育的な支援と医療的な基盤の連携の重要性を強く感じました。

(3) 「余暇時間に取り組める活動」を発掘し、家庭・事業所に引き継ぐ

「何もしない時間をどう過ごすか」が、地域に戻っての生活の安定を左右すると実感しました。パズルやビーズ暖簾、編み物等に取り組み、家族にプレゼント。

喜んでもらった経験、やり遂げた経験を通し、家庭・事業所でも黙々と一緒に取り組んでいます。 Aさんが作られたビーズ暖簾



中学生の事例 ～相談をとおして～

ひょうご発達障害者支援センター クローバー

発達障害もしくは発達障害の疑いがある人の相談が約年間 2,000 件寄せられます。最近、相談件数が増えているのが中、高校生の事例です。相談内容としては、学校生活の不適応、学習の遅れ、進路などです。

この度は、学校生活の中で、自身も方法が分からずうまくいっていないことを、どのようなやり方をすれば自身が取り組めるようになるかを一緒に考え、取り組んだ事例を挙げさせていただきます。

<概要>

(生育歴)

- ・3,036グラムで出生
- 首すわり3か月 寝返り6か月 ハイハイ9か月
- 一人歩き1歳 初語1歳3か月 指さしあり
- アイコンタクトあり 健診時指摘なし
- ・家庭で困ることはないが、幼稚園などの集団生活では遅れ気味だった。
- ・小学校時、通級利用申請をしたが、利用者多数で利用が叶わなかった。

(検査結果等)

- ・WISC-IV (13歳) 全検査IQ91 言語理解指標105
- 知覚統合指標83 ワーキングメモリ指標89 処理速度指標90
- ・心の理論課題15/20 字義通りに理解しているところが見られた。

<支援経過>

【テストの点数は悪くないのに、通知表の評価が下がってきている。その理由として、提出物が出せないからだ」と指摘されたが、どうしたらよいか】という主訴で中学1年生時来所。

提出物には、保護者の印をもらうような文書類と、テストや長期休みに出される課題がある。Aの場合は、文書類を提出することはできているが、課題をすべて提出することが難しいということであった。

保護者は「課題をしなさいしなさいと何度も言っているんですが、“わかった”というのにしないんです。成績も下がってきたし、このままでは行ける学校がないのではないかと…」と将来への不安と対応の難しさを表明された。A本人は「ちゃんとやってるのに!(指摘を受ける)」と、注意を受けることへの不満を表明した。授業の内容理解を確認すると、Aは「わかる」と言い、テストの点数も平均的な得点が取れていた。担任の先生からの評価も、発問に答えることはできており、授業内容は理解できているということであった。

本人が困り感を持っていたので、クローバーで取り組みそうなこととして、“課題の取り組み方を一緒に考えていきませんか”と提案し、Aも保護者も承諾された。

中学校では、定期テストの前と長期休みの際に、課題が出される。そのタイミングで、まず〈課題一覧表〉〈課題のワーク類を全て〉持ってきてもらうことにした。すると、当日持ち物を揃えることができなかつた。必要な教科書のワークを把握し、持ち帰ることができていないことが分かった。

そのため、まずは〈課題一覧表〉の内容を読み取ることに取り組んだ。〈課題一覧表〉には、教科書の範囲、ワークの範囲、提出期限が記載されている場合が多い。「範囲となっているページを開いてみよう」と伝えると、一覧表のど

こを見たらよいかで戸惑い、該当箇所を見つけるまでに数分の時間を要した。

そこで、上から、1教科ずつ、範囲の把握を行った。1教科といってもワークが複数ある場合もあり、範囲の把握だけで20～30分を要した。Aは終わると机に突っ伏していた。保護者は「これだけでこんなに時間がかかるんですね」と驚かれた。私は「よく見て、範囲の確認作業ができたね」とAを労った。

次の機会には〈課題一覧表〉と〈すべてのワーク類〉を持参することができた。今度は〈課題一覧表〉の読み取り(前回の確認)に加えて、指定された範囲をいつまでにやり終える必要があるのか(提出期限)を確認し、何日間でもどれだけの課題に取り組む必要があるのかを考えてもらった。方法として〈計画シート〉を用意し、どの教科のどの範囲をいつ取り組むのか記入していった。

最後に〈計画シート〉全体を見渡し、1日に多くの課題が重なっていないか、実際にできそうな計画になっているかをもう一度確認し、それぞれの取り組み日を書いた付箋をワークに貼っていった。そして「計画に沿って課題に取り組んで、終わったら付箋をはがしてみよう。そして、次に来てもらった時に結果を教えてね」と伝えた。

<結果>

テスト終了後〈計画シート〉をもって来所してもらい、振り返りを行った。「課題は出せました」と、当たり前のことのようにA本人から報告があった。保護者からは「あれ以来、忘れたらいけないものを付箋に書いて貼っています」と報告をいただいた。中学校では、初めての定期テストに向けては、どのように課題に取り組んだらよいかについての指導はされているとのことであった。

今回の内容は言葉で表現するなら【計画的に課題に取り組む】ということになる。一般的には、何度か経験すれば、その人なりのやり方のコツをつかみやっつけられるような事柄ではある。値として平均的な言語理解力があり、通常学級での学校生活を送れている発達障害のある人の中には、初めて出会う事柄に戸惑い、やり方を掴めないまま時間が過ぎてしまうことがある。Aは、少しの工夫があることで自分なりのやり方のコツをつかみ、取り組めるようになることができた。“やり方がわかれば、できる”を実感した事例であった。

テスト前や長期休みに課題が出るこの仕組みは中学卒業後も進学すれば続く仕組みとなっている。少し応用することでその後の進学先(高校・大学)でも利用できるため、進学していく方達にとっては必要なスキルの一つであると考えられる。また、中学に入ってからこの課題に取り組もうとすると、授業が進みながら大量の課題が出されるという難しい条件が重なる。そのため、状況が似ており練習できる機会として、長期休みの宿題の取り組み方について必要になりそうな小学校高学年から取り組むことが多い。

「その井戸に“潤いある水”を注いでいただいた」のは三原園長でした

障害者支援施設 あかりの家 支援部長 亀山 隆幸

今、法人は100名の職員になりました。26年前は一法人一施設。全職員で約20名（支援員14名）でした。

三原園長は、職員が「力」をつけていく中でチームを作り、地域の信頼を獲得し、その結果として事業展開へとつなげていく。そのスタイルを一貫され、ここまでできました。

退職の際、あかりの家開設に尽力され、昨年4月にお亡くなりになられた今津房子元理事に向けて、また私たちに歴史を語り継ぎ、その上に立って次の歴史を作って欲しいという願いを込めて「井戸を掘った人の恩を忘れない」という冊子を作成されました。

そこに私はもう一言加えさせていただきます。「その井戸に“潤いある水”を注いでいただいた」のは間違いなく三原園長です。と！とどまらない日々の積み重ねは、多くの実力職員を輩出し、育成のオアシスとなりました。また、全自者協理事を15年間（副会長8年）務められ、舞台を全国に替えても、普段の朝の引継ぎで言うておられることを言われる姿に、“あかりの家の日常”への誇りを与えていただきました。

ご一緒させていただいた約9,500日の中で、一番長く、濃い1日だったのが2003年の県における自閉症・発達障害者支援センター事業の委託先の選考会議でした。夜も眠らず、会議に臨んだことを思い出します。園長が来られて9年目で、それまでのリハビリ的ショートステイ等の実践、事例研究会、キーワード集等の発信…。法人にとって、集大成となる節目の場でもありました。

あれから、17年…。現在、兵庫県強度行動障害地域生活支援事業を受託しています。改めて丁寧な取り組み、丁寧な言語化が次につながると確信しています。「チームがバラバラでは強度行動障害の支援はできない」。チームが全てであることを三原園長は教えてくださいました。

・・・2020年4月末。三原園長より「退職の挨拶」の葉書が届きました。そこには、「部下にも恵まれ、お陰様で有意義な26年間を過ごすことができました」と書かれてありました。普段、照れ屋の一面もおありになる三原園長が書かれた言葉だと思うと、嬉しく涙が出てきました。

同じようにはできませんが、みんなの中には、三原園長の志やメッセージが生き続けています。言霊です。法人あかりの家は、これからも目の輝きを持ち続け、希望ある将来に向けて頑張っていきます。

「26年間の思い出に負けないように！」です。本当にありがとうございました。



2003年保護者会新年会にて

“密着取材”“現場第一主義”を叩き込んでいただいた三原園長

ひょうご発達障害者支援センター センター長 和田 康宏

常に三原園長からは、行動、表情の変化を見る“密着取材”の大切さを説いていただきました。“密着取材”という言葉は分かりやすい言葉ですが、とても難しいことです。日々の支援を重ねていくうちに、利用者のことを「分かったように思ってしまう」「こういうことだろうと決めつけてしまう」ということに陥ります。その時、“密着取材”ということに常に頭に思いだし、その人のことをなぜ、そういった行動をとるのかという視点で徹底して見る必要があります。あかり家の支援員から、障害児（者）療育等支援事業 コーディネーター、ひょうご発達障害者支援センターと属するところが変わりました。支援の対象も知的障害を伴わない自閉症やADHDの診断を受けている人たちの支援が中心になりました。しかし、その中でも“密着取材”は変わりません。

もう一つ三原園長からの言葉で忘れてはいけないこと、“現場第一主義”という言葉です。今、ひょうご発達障害者支援センターの業務は、様々なことを求められます。講義、コンサルテーション、研修会の開催、HP等を利用した情報発信など、相談者への支援以外のことも増えています。しかし、こうした取り組みが認められ、役に立つことができるのも、相談者個々の支援ができてこそこのことです。

また、組織を運営することは、個々の支援以外で行うことが数多にあります。三原園長からは「あなたたちは、利用者の支援（現場）のことを一所懸命すること。それ以外のことは俺がやるから」という言葉をよくおっしゃっていただきました。今は、このことがどれだけ有難いことかというのが分かります。

こうした三原施設長からいただいた言葉を常に思い、私自身も微力ながら、法人あかりの家の一員として覚悟をもって携わりたいと思っています。ありがとうございました。

門扉・フェンスを改造 開かれた施設に

高く、濃い緑色の重たい印象のするフェンスから、低く、薄いグレーの目立たないフェンスに改造。門扉も重厚で背の高い、観音開きから、開け閉めのしやすい蛇腹式に変えました。

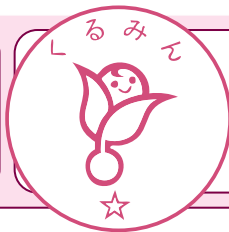
明るく、開放的な印象を持っていただけたらうれしいです。



あかりの家イロイロ情報局

短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ 2,173 日の利用がありました。



くるとみんマーク取得

次世代育成支援対策推進法に基づく基準に適合する事業所として、「兵庫労働局」より2015年4月15日付で認定されました。

障害児等療育支援事業

在宅障害児（者）及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフをご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

- I：お宅にお伺いしてご相談をお受けします。
- II：あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。
- III：通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。

(在宅支援訪問療育等指導事業)
(在宅支援外来療育指導事業)
(施設支援一般指導事業)

自閉症専門 図書・VTRの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約400冊保有し、希望する方に貸し出ししています。

姫路親子体操教室

親御さんが子供さんの身体に働きかけながら、<親と子のいい関係>=主導と受容のバランスある力をつけていくことを応援しています。

ナイスハートバザール あかりの家 さり班

イオン高砂の協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。是非とも足を運びください。
日時：12月12日(土)・13日(日) 場所：イオン高砂 セントラルコート

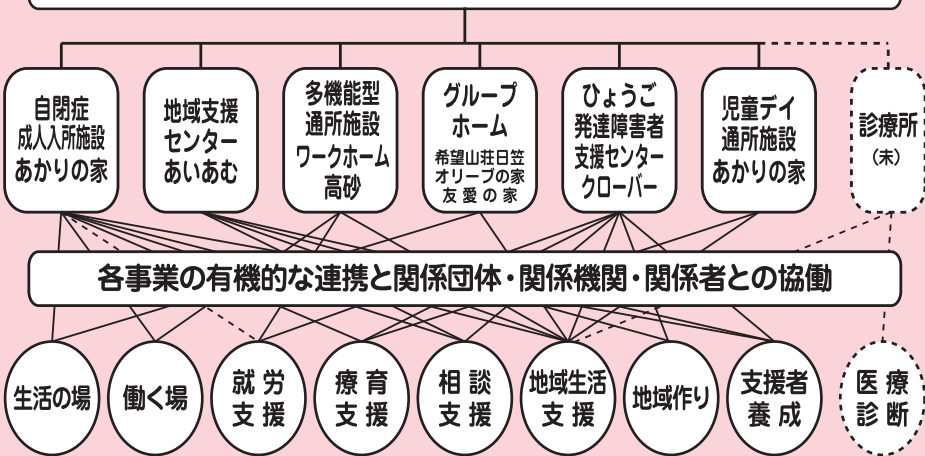


納豆工房 なつとこちゃん 福祉アンテナショップ ワークホーム高砂

10月19日オープンした、納豆工房 なつとこちゃんは、しっかりとした衛生管理のもと、5種類の手づくり納豆を製造しています。是非ご賞味ください。
同作業所内にオープンした 福祉アンテナショップ では、なつとこちゃんの直販を行うとともに、あかりの家のさり織りをはじめ、他の福祉施設の利用者さんが作られた製品も多数販売しています。是非お立ち寄りください。



社会福祉法人 あかりの家 自閉症総合援助センター



利用者状況 (H31年度)

(令和2年4月1日現在)

あかりの家
施設入所 定員 40名、現員 40名
(男 31名、女 9名)
生活介護 定員 40名、現員53名
(男 43名、女 10名)
ワークホーム 定員 40名、現員 42名
(男 32名、女 10名)
グループホーム 定員 23名、現員 22名
(男 17名、女 5名)

1. 出身別利用状況
高砂市(32) 加古川市(22) 播磨町(8)
姫路市(14) 神戸市(10) 尼崎市(2)
小野市(1) 加東市(1) 神戸町(1) 県外(3)
2. 年齢
あかりの家 最年長 65歳 最年少 21歳
平均 施設入所48歳 生活介護46歳
ワークホーム 最年長 56歳 最年少 18歳
平均 就労B型36歳 生活介護39歳
グループホーム 最年長 60歳 最年少 24歳
平均 42歳

社会福祉法人 あかりの家

- 障害者支援施設 あかりの家
- 自閉症成人施設 あかりの家
- 多機能型事業所(就労型・生活介護) ワークホーム高砂
- 納豆工房 なつとこちゃん
- ひょうご発達障害者支援センター クローバー
- 児童デイサービス あかりの家
- 地域支援センター あいあむ
- グループホーム 希望山荘日笠
- グループホーム オリーブの家
- グループホーム 友愛の家

- 〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇504番1 TEL(079)254-3292 FAX(079)254-3403
URL <http://akarinoie.org/>
- 〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL(079)254-3292 FAX(079)254-3403
E-mail akarinoie@nifty.com
- 〒676-0081 高砂市伊保町中筋1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
E-mail workhome@nifty.com
- 〒676-0082 高砂市曾根町1780-1 TEL(079)448-5400 FAX(079)448-5111
- 〒671-0122 高砂市北浜町北脇519 TEL(079)254-3601 FAX(079)254-3403
URL <http://auc-clover.aia9.jp/> E-mail auc.clover@nifty.com
- 〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL(079)254-3292 FAX(079)254-3403
- 〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL(079)280-3740 FAX(079)254-3403
E-mail aiamu@mbr.nifty.com
- 〒676-0082 高砂市曾根町1704-4 TEL(079)447-3136 FAX(079)447-3136
- 〒676-0822 高砂市阿彌陀町魚橋375-16 TEL(079)447-3700 FAX(079)447-3700
- 〒676-0082 高砂市曾根町1704-5 TEL(079)447-1800 FAX(079)447-1800